



古風歌

美草集申てよははらうるや

日集申てよはは遠くも似て然らざるや

日集志あう一よ推

日集てよをその詞を擧げたるや

古風乃辭つらふ こと 今も 今も

詞をぞ せし なるも

の 詞 たるや けりや かも 昔も 今も

詞も なるも 詞 なるも

わ 志も 志ぞ 志こそ 詞 思 思

思 思 思 思 思 思 思 思

らねふの玉珠

七

ゆを ずを ずりり ずらる すすれ すすえ

かたの 志の 志ん

おそ ちまか あせぬも かな ばよ かな

かたの 志の 志ん

志て 志く 志り 志ら 志く

ま 志ま 志ま 志ま

文章乃部

詞瓊綸七之卷

古風の部



○美奈葉未よりて。古風のまきよむのがく。候字づらひきバクまう〜
 けいせきまをれど。てふきはなのこへたえてまごせいで。まゝあふ。まゝあふ。ぬ詞よ。こ
 のこごまてのまきあふ。けいバクまきづらひき。定まぬのこをれバ。み
 づらひまきあふ。まきまをれまきあふ。まき〜。まきまをれあふ。まき
 うま〜。けいよまよりぬまきま〜。まきまをれ。いたやまをまきて。まきは〜。みま
 ままをれま〜。のこをれ。まきま〜。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ
 まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ
 まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ。まきまをれ

をみひえそく〜
あを祢〜
よ又印ハ海〜
おくといひて。下に〜
おつと。おつと。りやがよ〜

十八 けろぎまいと けろぎまをくハたちをき花ちの時みきあれよ **む。**

こせもよまぞのや何のこふををるれが
おつと。おつと。りやがよ〜

十九 免つ〜
こまハ上りぞ〜
けろぎま。六帖ハ二のろを。おん人と〜

礼

二十 せみのせみ人 **む。**

年けそぶおふえの系ふりきけえつりひつぎふ **む。**

あまハ上り〜
おつと。りやがよ。

二十一 なるなる けふそののり〜 **あ。**

けけろハいふ〜
いなる。のハおまハ〜

二十二 けろぎまのい〜 **あ。**

こまハ上り〜
おつと。りやがよ。

二十三 けろぎまのい〜 **あ。**

けろぎまのい〜
おつと。りやがよ。

二十四 けろぎまのい〜 **あ。**

あまハ上り〜
おつと。りやがよ。

二十五 けろぎまのい〜 **あ。**

あまハ上り〜
おつと。りやがよ。

あまのこゝろをえきとらめや。琴をきくとわをみとらめや。

一七 ^{キチ} いづまうりおひり ^{キメ} けめうら

三 ^{キチ} いづまに ^{キメ} けめうら

一七 ^{キチ} いづまうりおひり ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

件のまごど。んらんきんとしふきとらを。カらめきえこいた。たがう
おゆとまごど。素中にかくはおとく例たる。又上り出きとら。日
本紀のまごど。後のまごど。こまら例うら。

一八 ^{キチ} うはさけを ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一十九 ^{キチ} うら ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

二〇 ^{キチ} 秋の ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

二一 ^{キチ} 秋の ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

こまらうのか ^キ けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一八 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一七 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一六 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一五 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一四 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一三 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一二 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一一 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

一〇 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

〇九 ^{キチ} いづま ^{キメ} けめうら。乃まらうかさきりいふふえこ

引くくまりぬと引べき。数多き引ぬ。

よび入きまらばかかあまあまら

七 甲 あくはあばあきゆさけ **音** みかとりへつうふりさくをきりの

こまハ上リ下も多れを。音字あましと引ハながてこ。

九 乙 ますうをゆゆきのまこみふあふ **偃有**

コヤセル フシタ

ハ偃有ハ上のりども。こまハ上リ下も多れを。音字あましと引ハながてこ。

十 丙 りいじのちまふ人まといとまらさや梅をかぎりあうり **集有**

コトハ上リ下も多れを。音字あましと引ハながてこ。

十一 丁 山しうけいさこのりさふらうあさくま向しれを妹りらひ **難**

ガタシ

こまハ上リ下も多れを。音字あましと引ハながてこ。

十二 戊 日ぎんこけさきりさくさくやまごぢのさうけふむひ **吾**

コトハ上リ下も多れを。音字あましと引ハながてこ。

此法を板本にむまびてまけと引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。

十三 亥 みやこへあまいうし **結手解毛**

此法を板本にむまびてまけと引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。

十四 子 大地の神ハるまきやうらうら **離流**

此法を板本にむまびてまけと引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。又甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と引ハながてこ。

十五 丑 右結もぐひのよみほりくさくさく **集有**

○古風の辞

こまハ上リ下も多れを。音字あましと引ハながてこ。

日ど紅辞と、ほひまがとれ古風あゝかぎりそ、たうくうゝめきか
てたぐひを、くちま老あせり。さうきどけ辞がとく、まてておま
その本あはるゝのひおいつうてハは、おれ定まるふあゝあゝとほし。
おまつくべー此辞がとを、何くも見て。今よまむおれて、おまをを
みどりにして、ちやまゝとて取ま。

色

- 一 けあゝおれつみ林のくくさびて、ちやまゝみやこえと、おまかゝ
- 二 久しとれあ老あせり、ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 三 ぬさとのちやまゝあせり、ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 四 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 五 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 六 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 七 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと

- 八 秋もちていくと、ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 九 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十一 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十二 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十三 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十四 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十五 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十六 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十七 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十八 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 十九 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと
- 二十 ちやまゝとれみやこの、伊門のちやまゝと

五 天地乃そとにへへくつひつぎとけくのみよぬきし
 二 玉うがみむらむらのさねづうまひむづつひふらりかてま
 十 きのあえてうきまきつひびるきとくあたくつまてえまけりき
 七 ままがれむきまくのまも候こそやまよびこそへむらうはく
 四 けちんよはりかもわんをけさこそうひきてこのまげき
 十七 茶おしてゆひきもを候まきみでいもあうらうをたまきん
 十五 秋の兼をまもあうけんあどあをいの極えぬきとむらぬま
 三 まがれうわがきつてき
 右 茶路乃身兒のよび坂あえがひてひより結んやそのハ船に
 六 みく結えくあいのまづを清てそとまきくはぶをまきし

右のまがれくつひびるきのあえてうきまきつひびるきとくあたくつまてえまけりき
 ○あし
 ぬたなく色
 ○とまきつてまきて例
 ○まき
 日 ま川乃瀬りまきまきけすけあひて者
 ぬ ^{まき} まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 十九 あまふまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

四 佐保川のさきさきほらぬをむけのうらぬききもけりぬ

七 やまねぬをくくしけりのおいつかともがまづ月ともやもてぬ

けふがひのぬらハ。かぬうハあまう。けふぬうハあまう。けふぬうハあまう。けふぬうハあまう。

○かど

二 石見のさき角山乃志のまゆとぬ神事さけいとんきん

十五 かつきとえんとあひしごがどけ秋秋さけぬあきん

八 味香うしあうえてほら梅危志ぶるやんをよまへてん

こまハ上のぬらちあんらちを日ト多まて。下へどわりのそりまてなま

○ぬうと

六 人こをぬ命とけともみより世の徳のこいとの常あぬ

七 ぬをぬれよけり月をさきん小ぬ乃ふべり冥もけぬ

八 長月の昔のさけりぬつひあとおりぬあまきこぬ

こまハ上のぬらちと日トて下へどのさきまて。こいぬあまきこぬ

○ろか

三 ^{七カ}けりぬしあまひあまきいや口をふらぬえぬばかきまろ

五 林をがくくむむいさけりみへ今けさうにへあまてろ

ろくとハ。ちりぬえ林け不埒け雄畧は日本紀に述べぬるの歌なり

○たのけぬをかきこまのぬらち なぬらち 下のここの條にぬ

○ぞふぬらか

四 ぶくろはぬがことふぬら う 小山田の苗代をけ中候し

○志了そ

かくーろそ
ふーろそ

な

- 一 させと乃ほくくつぞれつろくふんつかりあ あ こせろまを
- 二 大ぶのれたりしれみーるがいはばぬきいひん あ とうの色とふ
- 三 秋をきのちうまげゆはささるききせん あ んのバローみ
- 四 かくぎ次あちの枝うゆきてぬを花いちん あ ぶとろろそ
- 五 梅茶花とももろどろあけいらじろきん あ ぶ仗やらを
- 六 一云 あ ちままづひやらどろそと志ん あ
- 七 家おーろぬきいひん あ いかせれ後葉がうへふてろと一月を

○心のおれあ

- 一 明きてるやえあ あ ちびくろさあ あ 志ねあと思ど あ
- 二 いかろく思ど あ ぶあしてゆるあ あ ちもされまけあ あ
- 三 いぶぬきあ あ ぬきやらあ あ 風まろのせあ あ のみうたを あ
- 四 葉はさもぬきあ あ ぬきえてみ あ いでしれを あ 行 あ
- 五 ころてあつあ あ かりてか あ ちもろれあ あ ちんつ志ぬ あ
- 六 ちもろれあ あ ちんつ あ ちもろれあ あ ちん あ 神ふき あ ちん
- 七 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 八 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 九 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十一 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十二 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十三 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十四 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十五 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十六 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十七 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十八 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 十九 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん
- 二十 ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん あ ちん

○志了そ

○志了そ

よ。かこののありまハ思をむろく。けろきどハあふふをづらし

○かをよりかくもけりかやきーかごろーかあを

○たをよふおろる有きをたどち ナセノ千 同二十三 たりをけり ナセノ千 同甲六十八七

けたハ、ナセノ千 同二十三 だんをれてあじふたといふ。又四のまをよもまべ。四を
だむまをよもまべ。四をよくすのまあり。運ま特ままをよもまべ。まをよもまべ。
こゆく。まをよもまべ。まをよもまべ。

だを累ぐ格

あまやあまやいまやいまやの免やいまやあまや

いせやいせやいせや こまのハ上のやの條をよもまべ。こまのハ上のやの條をよもまべ。

あり ナセノ千 同二十三 あり ナセノ千 同二十三 あり ナセノ千 同二十三

いあま ナセノ千 同二十三 九 衆人のいあま ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三

あまのハかのよりをを加へてんたべー

衆人のいあま ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三

あま ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三

いあまのハかのよりをを加へてんたべー

あま ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三

あま ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三

あま ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三

いあまのハかのよりをを加へてんたべー

あま ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三

あま ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三 ね ナセノ千 同二十三

らきふを畧く格

おはらかたを ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
こらうおはらとらふきふをらをふきてかたいら

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

あはは後世の格をりておはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
さふらう ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
いふ ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三
おはら ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

よふ ナレ 九 おはら 一 よかた 日 十三

日 かろてぬてあつてけり **む** かしふんそはくぬふあせゆへにが
 月 むだといふあつてけり **む** 秋萩乃咲てちりやうむにありま
 三 中より人をけり **む** 海童にぬきかへるあしきん
 四 かろてぬてあつてけり **む** 本は虫の蝶者のふあけりけり
 月 かろてぬてあつてけり **む** 志本にもけりまけりあそび
 月 トをぬてあつてけり **む** 志がぬけぬふむち小鴨よりけり
 日 しがあひかくてけり **む** けりしがほくと蝶がまにまねるん
 土 かろてぬてあつてけり **む** けり一日に蝶がまむんつちあけり
 日 わぎぬてあつてけり **む** かりにもけりあひむぎてあぬべきりのを
 三 中より人よりけり **む** けりともあそびし物とあぬけをかり

日 たらぬてあつてけり **む** たどの庸のあかやうけりあせり
 月 いつまでいひむゆのちをぬてあつてけり **む** 志ぬまをぬ
 八 秋をぬてあつてけり **む** 秋をぬてあつてけり **む** 志ぬまをぬ
 十 あき萩乃枝もそとにありけり **む** 志ぬまをぬてあつてけり **む** 志ぬまをぬ
 月 秋の穂をぬてあつてけり **む** 志ぬまをぬてあつてけり **む** 志ぬまをぬ
 十一 けりぬてあつてけり **む** 志ぬまをぬてあつてけり **む** 志ぬまをぬ
 月 志ぬまのえはけりぬてあつてけり **む** 志ぬまのえはけりぬてあつてけり **む** 志ぬまのえはけりぬてあつてけり
 日 志ぬまのえはけりぬてあつてけり **む** 志ぬまのえはけりぬてあつてけり **む** 志ぬまのえはけりぬてあつてけり
 三 あつてぬてあつてけり **む** 志ぬまのえはけりぬてあつてけり **む** 志ぬまのえはけりぬてあつてけり
 又 たらぬてあつてけり **む** 志ぬまのえはけりぬてあつてけり **む** 志ぬまのえはけりぬてあつてけり

十二 今どふも目をとりしをわひとどてもん 年月久し **きま**く公

十九 ち重く成ちるふそつぐり 神もはつふまゝらてめ **きめ**やと

のまのまをわりのまを。一をまのハ一にわを。一をまのハ一にわを。一をまのハ一にわを。

おそ **おとさ** **おせぬ**と

美にそくし 二ノ三ノ三 八が花あつびある **あそ**ふ 十九

酒うすかべ 十九 ぬる梗つぎ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九

病にづ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九

いと **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九

ふとく **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九

件のおそハ。幕中に與と社欲得欲まどま。ハオハ欲得欲まどま。ハオハ欲得欲まどま。ハオハ欲得欲まどま。ハオハ欲得欲まどま。ハオハ欲得欲まどま。

許増をつぎ 二ノ三ノ三 比典とある。これらもを流して。いづれもけ核よむべし。おのをもあ。欲與を。のえあそ。十二のまの去欲まゆき。アそまどよまんをむが。こまハ板本の訓を。控い。い。く。い。やまゆが。そ。い。あ。が。く。お。ま。て。今。ハ。訓。ま。ん。後。の。人。の。の。め。あ。ど。ろ。か。く。お。く。し。伊勢地代の方。に。結。ゆ。ふ。く。と。な。ふ。つ。ぎ。こ。せ。と。は。な。は。け。こ。の。控。ま。り。は。て。日。ま。り。ゆ。ふ。を。執。の。ま。と。ん。ぬ。ふ。は。た。を。あ。は。ぬ。む。が。と。し。

ち **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九

ゆ **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九

あそと。ふと。おと。け。ま。る。ま。あ。そ。ま。と。い。へ。を。

は **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九 **あそ**ふ 十九

こまハ上の加の條。一。出。せ。ぬ。り。ぬ。く。と。と。日。ド。核。ま。あ。り。了。を。つ。ぎ。ア。そ。と。い。や。と。日。ま。よ。め。け。り。こ。せ。ぬ。く。と。よ。め。る。お。の。か。ま。を。控。ま。又。今。ハ。訓。を。誤。ま。る。も。有。

か **か**

三 ますを **か** **か**

四	佐保川のきつらつきの小悪本あかりをまつと張之草者立隠	かひ
十	梅花とれとらうとぞき母ゆなうとつろ人乃きつとら	かひ
四	もちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ	かひ
四	何し引乃は回つら子むでむとせめふそへとれとら	かひ
四	あまつねうふふの衣とれはきぎうふま ^奉 はよもき	かひ
四	香はむしほきまはさぢぢぢめぢぢぢけぢらとらもら	かひ
十八	あつとぢつみくやらばらや光葉花とらぢぢぢらへとぬく	かひ
十九	ほろぎ次きけなうらぢぢあぢぢらにそりてあつきをぢぢぢぢ	かひ
十二	里人とぢぢら ^{かひ} ゆなとあやとてもあふんぢぢぢぢ	かひ
八	ようぢよふらひつぢ ^{かひ} とら	かひ

十七	おとのと名のともむてとら ^{かひ}	かひ
八	秋田かゝるぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ	かひ
十四	ねりら記をばをやきぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ	かひ
四	ぢぢぢ戸の夕はぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ	かひ
十一	ぢぢぢやとほろぎを今しそはぢぢのか ^{かひ}	かひ
四	秋づきばあぢぢぢのけぢ ^{かひ} おひとあぢぢぢにぢぢぢ	かひ
十一	さ藤 ^{かひ} そたきとねめどあまつとぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ	かひ
十四	むらぢやのけのつみのなりぬ ^{かひ} あうはいとらぢぢぢ	かひ
八	あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ	かひ
十三	何はさとらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら	かひ

ニ みよりせむふねがえハチーたうと君が湯をけりちてかよそく
 三 えとくせむぬるのうりにゆる火のほろぞおめる妹ようあ。
 十 けむ思はずあするんこゆお玉のまねきたま日をふりひらうよく
 十一 あいむきのら回りまぢがかく蒸火の下にこれのこまごひまき
 十二 中一うーたりのふ有きく さいふへて死なへまお入が
 十三 春はぬちいやーたあふうものむいまごころまきく さいふへて死なへまお入が
 さいふへて死なへまお入が

らく

けくともあきく 十六 あかいつくともあきく 十三 くるく 十五 ちくく 十五
 けくともあきく 十六 あかいつくともあきく 十三 くるく 十五 ちくく 十五

けくともあきく 十六 あかいつくともあきく 十三 くるく 十五 ちくく 十五
 けくともあきく 十六 あかいつくともあきく 十三 くるく 十五 ちくく 十五
 けくともあきく 十六 あかいつくともあきく 十三 くるく 十五 ちくく 十五

まく

けくともあきく 十六 あかいつくともあきく 十三 くるく 十五 ちくく 十五
 けくともあきく 十六 あかいつくともあきく 十三 くるく 十五 ちくく 十五

あゝまきのぞき^{十一} いまきとかがく^{十四} 入まき^{十三} ちりきん^{十六}

あがろえまき^{十九} 入城えまき^{二十} はまきまき^{二十一} は^{二十三}

右いづれもまきハむきのべしとてむをせむ

三 角^{十四} 角^{十五} 角^{十六} 角^{十七} 角^{十八} 角^{十九} 角^{二十} 角^{二十一} 角^{二十二} 角^{二十三} 角^{二十四} 角^{二十五} 角^{二十六} 角^{二十七} 角^{二十八} 角^{二十九} 角^{三十}

ろろ〜美代〜りた〜れ〜とありひてかよむきんをせむハ〜

けきま^{十一} ハきん^{十二} ト〜み^{十三} ツひ^{十四} きん^{十五} ヤ^{十六} ハ^{十七} ト〜と。そのちひ〜しむをいひつ
らぬてか〜のやく〜て美代ハぬととひてきんといふじ。ま〜とんと同〜と

十六 ち〜比^{十一} ち〜比^{十二} ち〜比^{十三} ち〜比^{十四} ち〜比^{十五} ち〜比^{十六} ち〜比^{十七} ち〜比^{十八} ち〜比^{十九} ち〜比^{二十}

け〜り きま〜 ち〜

こ〜もきま〜ハきんをせ〜とて。ちのきま〜と曰ト〜ら〜れ〜入〜あり。くハ〜ハ〜ま〜
ち〜は。り〜ハ〜の〜は〜。こ〜れ〜も〜ま〜に〜て〜と〜ら〜ん〜。それ〜と〜む〜を〜せ〜て〜ま〜
い〜と〜し〜む〜あ〜ま〜ま〜ま〜と〜と〜ら〜〜と〜

文章の部

○てふまはは〜む〜ら〜ひ〜の〜の〜ひ〜ひ〜て。〜ぬ〜何〜ハ〜は〜ま〜れ〜ら〜の〜の〜
か〜と〜な〜れ〜物〜や〜あ〜ん〜。後〜吾〜人〜の〜か〜き〜物〜を〜ら〜ふ〜。若〜う〜物〜を〜ぬ〜の〜の〜物〜
か〜た〜の〜。そ〜と〜く〜け〜ら〜の〜へ〜ん〜。前〜の〜に〜と〜ら〜く〜ば〜。〜や〜れ〜〜と〜ぞ〜お〜と〜。〜せ〜よ〜
こ〜み〜あ〜さ〜。さ〜り〜ら〜。ち〜と〜も〜い〜し〜〜へ〜人〜の〜。〜め〜お〜び〜り〜に〜と〜ら〜〜〜ら〜ま〜
は〜と〜の〜物〜ま〜と〜。た〜が〜ふ〜〜ハ〜〜に〜あ〜。た〜の〜づ〜く〜は〜あ〜と〜お〜が〜ゆ〜あ〜
あ〜ま〜。さ〜け〜は〜む〜ま〜り〜ハ〜。〜ら〜〜〜う〜あ〜は〜て〜ふ〜ま〜と〜と〜む〜と〜。〜し〜て〜。〜ら〜ひ〜の〜の〜
を〜乃〜ま〜き〜み〜。〜か〜き〜ま〜ら〜を〜し〜。〜を〜あ〜と〜。上〜下〜結〜ら〜の〜へ〜ん〜。い〜さ〜う〜と〜と〜あ〜と〜
な〜〜〜と〜わ〜。い〜づ〜く〜に〜ま〜れ〜。後〜の〜切〜〜と〜あ〜ち〜あ〜。あ〜〜び〜上〜乃〜て〜ふ〜ま〜を〜乃〜
か〜ら〜海〜ま〜り〜つ〜て。〜と〜ふ〜と〜ふ〜と〜あ〜と〜つ〜と〜つ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜の〜の〜ゆ〜ぐ

あふむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

上件の語どもをとりて。文書おてふきはも。歌く合くは。い

なん けあんをうき文ふ あうらうむらうあうらうき

いづき いづき あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

あうらうむらうあうらうき

又うさうかの日は〜。あはれなふんとぞあり。ことごとくありしをいひて。後のらやまり
あはれ

今の昔は人の文とてかくはなるふけはんのおまをききと張り。又よの娘びの
辞もみづりもて。そのとぬがあらまばいふぞや。

あまごうのふがふとハ。もくへむ
梅ねんまろかん。あのおどにあり

うさうかの。梅ねんまろかん。あのおどにあり。あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。
かへまきあまごう。あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

又後のそぢもふおくるもとり。おと敵りゆはあはれ。ほふけうはまぞお上ゆ

あふれざりき。あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

ふけ梅もふあひ。ことごとくうさうかの日よめ

日よめあはれと書

あふれにまきあまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。
あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

あまごうのふがふとハ。もくへむ。あまごうのふがふとハ。もくへむ。

件の縁がと。人のつゆふ湯。しとあるゆふ。うつらぐ。むせり。まぶす。父のつゆさそも。
その極くゆふ。いどたも。こらつ。け。け。け。も。ほ。ほ。ほ。

源氏物語

源氏 源氏の物語をいふ

源氏 源氏の物語をいふ

源氏 源氏の物語をいふ

いづきのよめはあつ。女流の文長にあり。よめ。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。

源氏 源氏の物語をいふ
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。

いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。

源氏 源氏の物語をいふ

いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。

源氏 源氏の物語をいふ
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。
いづきまぬ。う。とおか。き。ま。ま。ま。

阿那部如毛。久々思那返河女。^{コト}
当束能信者。はもる。長信也。^{アテ}
然大神乃。其者。之。半信。阿
天。之。許。も。心。田。之。之。石。屋。石。^{イハヤド}
哉。出。歸。飛。了。字。有。由。後。年。志。付。^{トコヨ}
也。其。事。之。多。知。之。之。信。亦。然。也。是。^{テリアカ}
分。け。道。也。河。水。志。事。才。分。之。事。

〇〇〇〇

〇〇〇

下尔^{トモ}鞠^{キコ}子^カ者^キ也^キ。子^カ之^キ受^キ。子^カ之^キ受^キ。
能^カ佐^キ主^キ。能^カ久^キ。能^カ久^キ。能^カ久^キ。能^カ久^キ。
能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。
能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。
能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。
能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。
能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。
能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。
能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。
能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。能^カ代^キ。

毛。又伊^カ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。
尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。尔^キ尔^キ。

久海リ〜平〜海心〜子〜
了。中七束伎子水母中書〜子信
福元〜海心〜久此度〜子〜
子事。束束心〜乃信跡飛都織
波女。今〜之〜後は伊也〜子時也。
能事。束利心〜也。子〜乃人子
吉心〜波女子玉乃伊原信〜子元

毛。由伎何以能束与以那久哉。信
近子孫信禮也。信孫那子〜玉
心。徒尔年诃志伎此也。那子
子〜毛。切久〜信。吉乃字〜子物事
子孫事。信。善。信。園人田才。是。乃信

瓊^{タニ}綸^ヲ餘^ノ縷^ヲ
鈴屋文集
同 歌集

嗣出

寛政四年補刻校

書肆

同	勢州	同	同	同	同	京都
藪屋勘兵衛	柏屋兵助	西村平八	勝村治右衛門	武村嘉兵衛	菱屋孫兵衛	菊屋七郎兵衛

